



## 【基本情報】

**展覧会名：**大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派

**会 期：**令和5（2023）年10月17日（火）～12月10日（日）

**会 場：**静岡県立美術館（静岡市駿河区谷田 53-2）

**休 館 日：**毎週月曜日

**開館時間：**10:00～17:30（展示室への入室は17時まで）

**観 覧 料：**一般1,400円（1,200円）、70歳以上700円（600円）、大学生以下無料

※（ ）内は前売および20名以上の団体料金。

※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料。

**主 催：**静岡県立美術館

## 【概 要】

永青文庫は、肥後熊本54万石を治めた大大名・細川家の下屋敷跡にある、東京で唯一の大名家の美術館です。南北朝時代より700年の歴史を有する細川家伝来の美術工芸品や歴史資料など、永青文庫の所蔵品は、約9万4,000点にのぼり、そのなかには、狩野派の傑作や重要作が含まれています。

本展では、永青文庫の狩野派の全容を調査し、その成果を踏まえて優品を選びすぎり、当館の狩野派作品と組み合わせてご覧いただけます。両館のコレクションを掛け合わせることで、室町時代から幕末まで、狩野派400年の歴史を名品によって迎える展覧会が出来上がりました。あわせて、調査の中で明らかになった最新の研究成果を盛り込みつつ、狩野派による中国絵画の鑑定や大名道具にまつわる仕事、また熊本藩の御抱絵師であった肥後狩野派についても注目し、幅広く大名家と狩野派の関わりをご紹介します。

正統派であり、かつ刺激的な狩野派展、ぜひ会場でその魅力をご堪能ください。

### 【このプレスリリースに関するお問合せ】

静岡県立美術館 企画総務課 萩原 Tel. 054-263-5755 Fax.054-263-5767  
学芸課 大橋、石上 Tel. 054-263-5857 Fax.054-263-5742  
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2

## 【章構成】

### ■ 第1章 室町・桃山の美—元信・山楽を中心に

狩野派は、室町時代の狩野正信に始まり、その子・狩野元信によって土台が築かれました。元信は、中国絵画に学び、それを日本人に分かりやすく親しみやすい形に咀嚼して、工房で共有できる、平明で合理的な画風を確立しました。

桃山時代になると、元信の孫・狩野永徳によって、元信様式とは異なる雄壮で爽快な花鳥画様式が確立されます。永徳の子・光信は、元信の画風を発展させつつ、父・永徳の力強さ、華やかさを取り入れ、桃山後期の狩野派様式を成立させました。永徳の高弟・狩野山楽は、永徳の画風を色濃く受け継ぎつつ、光信からの影響も見られる独自の画風展開を見せ、この時代を彩りました。

最初の章では、元信とその周辺で制作された和漢の名品、そして永徳、光信、山楽らの画風が混じりあい、多様な作品が生み出された桃山後期狩野派の作品を紹介します。

上：図1 狩野元信 細川澄元像 永青文庫蔵（重要文化財）  
 右：図2 狩野山楽 狩獵図襖絵 永青文庫蔵（熊本県立美術館寄託）



### ■ 第2章 江戸の華—木挽町狩野家と鍛冶橋狩野家

江戸時代になると、狩野派は、狩野探幽を中心とする江戸狩野派が主流となります。本章では、探幽を祖とする鍛冶橋狩野家と、その次弟・尚信に始まる木挽町狩野家の画家たちに注目し、その展開を追います。木挽町家は、江戸狩野派を牽引する画家が次々と現れ、大きな影響力を持つようになりました。江戸後期には、狩野栄信、養信を輩出し、江戸狩野派様式を一新します。一方鍛冶橋家では、探幽の息子・狩野探信守政や探雪が繊細で装飾的な様式を確立し、木挽町家とは異なる画風を展開しました。

本章後半のコーナーでは、永青文庫と静岡県立美術館が所蔵する狩野栄信、養信の名品を並べ、本展の白眉ともいえる豪華な競演をご堪能いただけます。



図3 狩野探幽 富士山図 静岡県立美術館蔵



図4 狩野栄信 春秋山水花鳥図 静岡県立美術館蔵



図5 狩野養信 胡蝶船遊之図 永青文庫蔵



### ■ 第3章 大名家と江戸狩野派

前章までとは視点を変えて、大名家と江戸狩野派の関わりのなかで生まれた作品を取り上げます。

永青文庫に伝来する狩野派作品は、大名家のコレクションらしい特徴を備えています。大名家の床の間を飾るにふさわしい豪華な画帖や、刀掛・両面屏風といったお道具など、大名の生活の一部に溶け込んだ品々は、絵画作品とはまた異なる狩野派の魅力を伝えてくれます。

章の後半では、永青文庫の中国絵画コレクションを、その鑑定結果を記した江戸狩野派の添状などともにご覧いただきます。江戸狩野派にとって、中国絵画の鑑定はそれらを直接学び取るための貴重な機会でした。永青文庫の中国絵画に附属する彼らの添状や箱書きを、江戸狩野派が実際に目にし、学んだ中国絵画の事例とともにご紹介します。



図6 狩野探信守政・探雪 絵鑑より 永青文庫蔵



図7 伝樓観 芙蓉映水図 永青文庫蔵

### ■ 第4章 肥後狩野派の展開

ここまで、狩野派の展開を追いつつ、細川家と江戸狩野派の関わりに注目してきました。最後の第4章では、熊本藩の御抱絵師として活動した肥後狩野派に焦点を当てます。江戸狩野派の本流とは異なる形で細川家の画事に携わった肥後狩野派については、これまで、地元熊本以外ではほとんど紹介の機会がありませんでした。本展では、中央の木挽町狩野家あるいは鍛冶橋狩野家との関わりを軸に、肥後狩野派の様式的な展開を探ります。肥後狩野派について掘り下げることは、江戸時代の全国各藩の御抱絵師のありようや、この時代に狩野派が果たした幅広い役割を想像させるという点で、刺激的な試みとなるでしょう。



図8 狩野柳雪匡信 花鳥図屏風より右隻 永青文庫蔵（熊本県立美術館寄託）



図9 狩野伊圭弘信 細川斉茲像 永青文庫蔵

【関連イベント】 ※いずれも申込不要

■ 記念講演会「細川家の歴史と永青文庫」

講師：細川護光氏（公益財団法人永青文庫理事長）  
日時：10/17（火）10:30～11:00  
会場：当館講堂 ※定員 260 名、先着順



■ 展覧会企画者対談「大大名の名宝展ができるまで」

講師：佐々木英理子氏（公益財団法人永青文庫主任学芸員）  
野田麻美氏（神戸大学大学院人文学研究科専任講師、当館客員学芸員）  
日時：11/12（日）14:00～15:30  
会場：当館講堂 ※定員 260 名、先着順

■ 館長美術講座「肥後熊本の殿様のお屋敷について」

講師：木下直之（当館館長）  
日時：11/26（日）14:00～15:30  
会場：当館講堂 ※定員 260 名、先着順

■ 学芸員によるフロアレクチャー

日時：10/28（土）、11/23（木・祝）、12/3（日）、いずれも 11:00～  
集合場所：第 1 展示室（要観覧券）

【ご利用案内】

交通案内

- ・ JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約 6 分
- ・ JR「静岡駅」南口からタクシーで約 20 分、または北口から静鉄バスで約 30 分
- ・ JR「東静岡駅」南口からタクシーで約 15 分、または静鉄バスで約 20 分
- ・ 静岡鉄道「県立美術館前駅」から徒歩約 15 分、または静鉄バスで約 3 分
- ・ 東名高速道路・静岡 I C、清水 IC から約 25 分、日本平久能山スマート I C から約 15 分、新東名高速道路・新静岡 I C から約 25 分

ウェブサイト

<https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

お問合せ先（掲載用）

静岡県立美術館 054-263-5755（代表）

## 大大名の名宝 永青文庫×静岡県美の狩野派

宛先: 静岡県立美術館 (担当) 企画総務課 萩原 / 学芸課 大橋・石上 宛

E-mail : [webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp](mailto:webmasterspmoa@spmoa.shizuoka.shizuoka.jp)

- 本リリースに掲載されている図1～図9を広報用画像としてご提供します。  
本票に必要な事項をご記入のうえ、上記メールアドレス宛に本票を添付してお申し込みください。

### 【画像ご使用に際してのお願い】

- \* 画像データはメールにてお送りします。
- \* 画像は本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- \* 使用後のデータは破棄していただきますようお願いいたします。
- \* クレジットを必ず明記してください。
- \* 画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
- \* 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- \* 掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

貴社名: \_\_\_\_\_ 媒体名: \_\_\_\_\_

ご担当者名: \_\_\_\_\_ 発行・放送予定日: \_\_\_\_\_

TEL: \_\_\_\_\_ 発行部数: \_\_\_\_\_

FAX: \_\_\_\_\_ 定価: \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_ 掲載予定コーナー名等: \_\_\_\_\_

URL(ウェブの場合): \_\_\_\_\_

希望する広報用画像: \_\_\_\_\_

連絡欄:

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を读者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下にご記入ください。

读者プレゼント用招待券を【希望する・しない】  
招待券送付先【住所:〒 \_\_\_\_\_】

このプレスリリースに関するお問合せ  
静岡県立美術館 企画総務課 萩原 Tel. 054-263-5755 Fax.054-263-5767  
学芸課 大橋,石上 Tel. 054-263-5857 Fax.054-263-5742  
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2